

道徳 第2学年 国際社会への貢献 4-(10)」

授業者 太田市立北中学校 武川 光

1,本時のねらい

難民に対する救援活動で世界に認められた日本人、緒方貞子氏について知り、国際社会のために自分にできることをしようという意欲をもつ。

2,視聴覚機器の位置づけ

テレビやインターネット等で流れる最新の情報は、生徒にとって魅力のあるものである。本時では、パソコンのプレゼンテーションソフトを活用して、授業の展開に必要な映像資料を生徒に提供することにより、生徒のより一層の興味・関心を引き出し、生徒が授業に魅力を感じ、自ら学んでいこうとする意欲をもつことができると考え、本校の会場校研究テーマである「自ら学び、よりよく生きようとする生徒の育成」に迫るものである。

3,授業の概要

(1)難民について知る。

『どんな国が想像してください。』

- ・スクリーンに説明を映す。  
夏は40度、冬は-20度、大干ばつで3年間雨が降らない。慢性的な食料や水不足。皮膚病、風土病、マラリア、成長障害、薬がない。やまない戦争、地雷が1000万。プリントに書き、発表する。
- ・国名がアフガニスタンで、「世界に見捨てられた国」と言われていたことを説明した。難民の置かれている状況について知る。
- ・難民の置かれた状況についての画像を映す
- ・国境越えや難民キャンプでの困難な様子や難民、国内避難民の意味、難民の数や地域などについて説明した。

『難民についての感想を書きなさい。』

感想を発表する。

(2)高等弁務官として難民救済に取り組む緒方貞子さんの活動について理解する。

- ・緒方貞子国連難民高等弁務官を写す。
- ・UNHCRについて簡単に説明した。  
クルド難民についてのエピソードを知る。
- ・クルド難民についての画像を提示する。

- ・国内避難民は救済できないとする慣習があったが、緒方さんが救済を行ったことを説明した。

- ・ボスニア難民についてのエピソードを知る
- ・ボスニア難民についての画像を提示する。
- ・武装勢力が救済活動を妨害したこと、救済を受ける側が救済自体をボイコットしたこと、その状況を受けて緒方さんが援助停止宣言を行ったことを説明した。

- ・ルワンダ難民についてのエピソードを知る
- ・ルワンダ難民についての画像を提示する。
- ・民族紛争に関わった軍人が難民を隠れ蓑にしていたこと、悩んだ末に緒方さんが援助を続けたことを説明した。

(3)緒方さんの難民救済への思いを知る。

- ・緒方さんの最後の挨拶の様子を写す。
- ・「難民のために最前線で戦った人々に尊厳を、そしてだれよりも難民に尊厳を。」という言葉を残したことを説明した。

(4)アフガニスタン復興会議における緒方さんの活躍を知る。

- ・アフガニスタン復興会議の様子を写す。

(5)「国際社会のために自分ができること」について考える。

- ・「自分のできるところを一生懸命に努力する」緒方さんの言葉を写し、国際社会のために自分ができることについて考えさせる。

(6)授業の感想を書いて発表する。

- ・プリントに感想を書き、発表した。



